

II 「半固形流動食短時間摂取法」とは何でしょう？

半固形とは、液体より固体に近い半流動体のことで、粘性があって自由に變形することを特徴としています。『半固形流動食短時間摂取法』とは、半固形（ミキサー食など）の食事を、短時間で胃ろうから注入する方法です。

健常児は食事（固形物）をつぶしたり口で噛み砕いたりしてどろどろにして、飲み込んでいます。したがって胃の中に入る食事は半固形状態です。

この『半固形流動食短時間摂取法』は、ご飯を口から食べたときに近い状態で栄養を胃内に入れるため、より生理的な体の反応が期待できます。半固形栄養剤は処方できるものと、市販のものがあります。

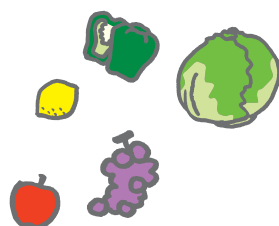


II 「液体の栄養剤を注入する方法」と「半固形流動食短時間摂取法」との違い

★ 液体の栄養剤を注入した場合

* メリット

- ① 鼻からの胃管でも注入ができる。
- ② 重力落下で注入ができる。
- ③ カロリー・水分の計算が簡単にできる。



* デメリット

- ① 吐き気やおう吐、誤嚥性肺炎の可能性がある。
- ② 下痢になりやすい（胃からの排出が速いため、または腸に直接注入するため）。
- ③ 腹痛、お腹が張る。
- ④ 胃ろう周囲からの漏れ（胃ろうの周りの皮膚炎）。
- ⑤ 注入中に体の向きや姿勢が制限される場合がある。
- ⑥ 上記①～⑤のため時間をかけて注入しなければならない場合がある。



* 液体の栄養剤を注入した場合のデメリットを解消するためには？

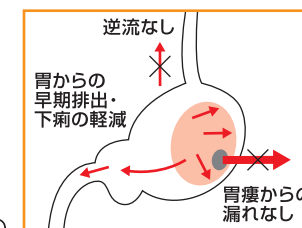
場合によっては体の向きや姿勢を整えてから、ゆっくり注入すればほとんどの問題は解決!? ……………でもたとえば1回2時間かけての注入を1日6回したら1日の半分は注入の時間になってしまいます。



★ 「半固形流動食短時間摂取法」の場合

* メリット

- ① 半固形流動食はさらさらしていないので、胃から食道に逆流しにくく、胃食道逆流にともなう諸症状（液体栄養剤注入中、後のゼコゼコ。誤嚥性肺炎）が軽快する。
- ② 胃からゆっくり排出されるため下痢症状が緩和される。
- ③ 胃ろう周囲からの漏れが軽減する。
- ④ 短時間で注入できる。（200mlあたり5～10分程度）
- ⑤ ご飯を口から食べた時と同じように胃が伸展するため消化管ホルモンの分泌がより生理的になる。また、唾液の過剰分泌がおこらないため唾液による誤嚥性肺炎の予防効果がある。



* デメリット

- ① 便秘
 - ② 食事アレルギー
- アナフィラキシーショックは命にかかわる重篤な合併症です。ミルクや栄養剤のみを注入していた患者さんにとっては、初めて摂る食材を多数胃ろうから入れるため、ミキサー食開始時は注意が必要です。また、以前ご飯を食べていた経験があったり、幼少期にアレルギーはないと診断されていても、栄養剤のみを注入していた期間が長い場合は、同様に注意が必要となります。



II 実際に「半固形流動食短時間摂取法」を行っている家族が考えるメリットとデメリット

* メリット

- ① 注入時間が短くてすむ。
- ② 下痢が治った。
- ③ 表情が良くなった、体力がついて健康的になった。
- ④ 食事を作ってあげられる。
- ⑤ 看護・介護しているから、食事をあげている・育児をしているという実感につながった。
- ⑥ 家族と同じ食事がとれる。
- ⑦ 経鼻、経腸栄養のときは、チューブの管理が大変だった。（チューブが詰まると自然に接続がはずれて布団が汚れたりした。それがないだけでも精神的に楽になった）
- ⑧ チューブ、注入の器械（ずっと繋がっていた、外出の時荷物だった）から解放された。
- ⑨ 大好きなものがまた食べられるようになって、家族みんなで喜んでいる。
- ⑩ 注入時のゼコゼコが少なくなった。
- ⑪ 入院することが減った。

